



プロジェクターを使ってお話される薄井秀夫先生（10月15日、順慶寺本堂にて、岡川経康氏写真）

今月の
一枚

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2023年（令和5年）

11月号

VOL.361

◆◆ 時代に合わせた表現 ◆◆

本堂では、大型スクリーンが常設されて、用途に合わせて利用されている。講師がプロジェクターを使って話をされるとき、護寺会総会での総会資料の掲出、各例会でのお楽しみ映像などで活躍している。スクリーンの利用頻度はこのところ大幅に増えて、毎月利用するようになっている。

◇ 怒りは怒りを捨てることで収まる ◇

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』より、

「怒りには、

怒りを捨てることによって打ち勝ち

悪い行いには、

善い行いによって打ち勝ち

吝嗇（物惜しみ）には、施しによって打ち勝ち

虚言には、真実によって打ち勝て。」

（第二三偈）

からの出典です。

今月のところは、第二次世界大戦後、サンフランシスコ講和会議（九五二年）で、仏教国スリランカの①ジャヤワルダナ蔵相が引用し演説した、「怒みは怨みによって消えることはない」（第五偈）と並んで有名な一節です。このジャヤワルダナ蔵相の演説のち、スリランカは、日本への損害賠償請求を自発的に放棄しました。

さて、今月の言葉の出自ですが、一代で富をなしたプンナという長者の娘・ウッタラーの話から出ています。

ウッタラーは、王舎城に住む異教徒の長者から、

今月の釈尊の言葉

怒りには怒りを捨てて

悪い行いには善い行いで

うち勝つことができる

◆ダンマパダ（法句経）
第二三偈より

長者の娘が嫁に行き、嫁ぎ先に馴染めず、宗教がからんでめめことが起こったときのひと幕です。



若院のテーマカット NO.54



わが息子の嫁にとせがまれ、やむを得ず嫁ぎました。しかし、嫁入り先では、異教徒の習慣ばかりで、どうしても馴染むことができませんでした。

ある時、シリマーという遊女に夫の世話をまかせ、お釈迦様のお弟子たちを招きました。夫は、ウッタラーがお弟子たちを世話をする姿を見て軽蔑していましたが、遊女・シリマーは自分に関心が向かないので、嫉妬し逆上して、沸騰したバスターをウッタラーにかけようをしました。そのとき、ウッタラーは、

「私は、おかげで法を聞くことも、布施をすることができました」

と応え、静かに合掌しました。その言葉を聞いて、ひるんだシリマーに、苦しみのもとを絶ちきる道を伝え、釈尊を紹介しました。

そこで、釈尊が説かれたのが、今月の言葉です。

◇感謝に転ずること◇

このところ、ウクライナやパレスチナで立て続けに戦禍が起こっています。それだけではなく、隣国のシリアをはじめ、アフガニスタン、ソマリア、イエメン、ナイジェリア、エチオピア、エリトリア、アゼルバイジャンなどでも悲惨な戦争が続いています。

どの国においても、過去に重大な事象が起こって、それを引き金に憎しみがわきおこり、やがて戦争となり、戦争によって新たな憎しみがわくという負の連鎖になっています。普段は冷静

でいる国民も、いざ戦争となると、怒りの感情をわき上がらせ、それを煽る指導者が圧倒的な支持を得ることになります。

そこに宗教が入ると、さらに問題は複雑化します。宗教は、宗とする教えが世代を超えて引き継がれるので、いったん宗教の問題で戦争を起こせば、世代を超えて問題が引き継がれてしまいます。

ところが、釈尊の教えを元にした仏教は、苦しみを生みだすもとは自身にある煩惱や執着にあり、それを越えるには、自身のなかにある煩惱を減らすことが必要だとされます。それをさせるには、私を成り立たせているすべてを縁と感じ、それらに感謝(②・回向)することが肝心だとされます。

紛争の悲惨さに苛まれた今、やはり仏教の精神は重要だと再認識します。

①【ジャヤワルダナ】

一九〇六年生まれ。スリランカの第二代大統領。英国統治下のセイロンで頭角を現し、独立後は内閣で要職や首相を務め、大統領制移行後は十一年間大統領を務めた。

一九五一年、セイロン代表の蔵相としてサンフランシスコで開催されたサンフランシスコ講和会議において以下の演説をおこない、「憎悪は憎悪によって止むことはなく、慈愛に

②【回向】

よって止む」という法句經の一節を引用して、日本に対する戦時賠償請求を放棄する演説を行った。

自分の修めた善行の結果が他に回って回らされて所期の期待を満足することをいう。大乘仏教においては、所期の期待をするのではなく、ただ煩惱や執着を減らすことで行われた善行の報いを、自他に向けることをいう。



お寺では報恩講は一年の締めくくりに言われていますが、本当の締めくくりは12月ですね。なんでかな?



そうですね。確かにお寺では一年の締めくくりは、報恩講ですと言っています。また、報恩講から新たな一年が始まるとも言っています。

一つ分かりやすい例を出すと、お祭りなどに専念している人たちは、一年中お祭りのことを考えていて、お祭りをしようとして終わって終わるたことではなく、次のお祭りのことを考えるでしょう。お寺の報



《第四三回 カメムシ》

先日カメムシ大量発生というニュースを見ましたが、車に二・三匹くっついてるのを発見しました。カメムシに近づきたくはないですが、ドアの近辺でしたので避けるようにしてに車に乗りました。

巷では害虫扱いされており、生きてるだけで邪魔もの扱いされています。カメムシにとってはいい迷惑でしょう。自分にとって良いものと思いのものを区別して生きている縮図をカメムシに感じました。

恩講でも同じようなことが言えます。一年中、報恩講に向けて準備をしていて、無事に報恩講を終えることができたなら、新たな報恩講に向けてスタートするわけです。

ただ、報恩講はお祭りとは違い、親鸞聖人の御命日参りです。

昔、親鸞聖人がご存命のころ、関東で活躍をされて近くに沢山のお弟子ができました。やがて、親鸞聖人が生まれ故郷の京都に戻って行かれたので、関東のお弟子の皆さんは、何か問題があると、はるばる関東から京都まで出かけていかれました。

これが、お弟子の中で習慣となり、親鸞聖人が亡くなってからは、一年に一回、御命日に京都のお墓にお参りに行き、一年してきたことを報告し、新たな一年の誓いをしました。これが報恩講の起源です。

お寺とともに

コロナ戦争



気のせいかもしれませんが、最近子供達の元気のなさが気にかかります。以前は朝、登校途中の子供たちに「おはよう」と声をかけると、

「おはようございます...」

と小さな声でも返事が返ってきました。しかし、近頃は下を向いたまま通り過ぎる子供たちが多いように感じます。

これは自分の元気が足りないか?と考え直し、やや大きめの声で「おはよう!」と挨拶してみるのが...。

考えるとこの三年半の間、子供達はマスク生活。学校でもお家でもさみしい思いをしたことでしょう。また、テレビをつければ、ウクライナやパレスチナの戦時下の子供達の悲惨な現実も目に入ります。

こうした状況が子供達の心の成長の妨げになって当然です。これからの子供たちに与える影響は如何ばかりかと想像もつかないほどです。

公開講座の薄井秀夫先生

「仏教の底力」を熱演

さる10月15日(日)午後2時より順慶寺本堂にて、(株)寺院デザイン代表取締役・薄井秀夫先生を講師に迎え公開講座が開催されました。

順慶寺では、毎年10月に護国寺主催で公開講座を開催しています。令和2年から3年まで、コロナ禍のために休会しましたが、昨年、東大の牧野先生にお越し頂いてから、再開しています。

満堂の聴講者

今年の公開講座は、ようやく秋らしくなってきた絶好の日曜日に、八十人を超える参詣の人が聴講をされ、本堂は満堂となりました。この



プロジェクターを使って講演される薄井先生(順慶寺本堂にて)

当日の講演では、本堂正面にある大型スクリーンにプロジェクターを使ってスライドが表示されました。堂内の照明は少し暗くしていますが、あたりが見えないほどになっていません。

講演の最後には、質疑応答が設けられ、「どうしたら葬儀が厳かな儀式にすることができるか」という質問に、「葬儀社主導でイベント的に進んでいる葬儀に僧侶は遠慮しています。こうした状況に施主の方が気付く必要があります」との答えがありました。

講演では、まず、このところ、日本の仏教は「葬式仏教」と揶揄され

葬式仏教の意義

度講師には、東京より(株)寺院デザイン代表取締役の薄井秀夫先生にお越しいただき、「仏教の底力」というテーマでお話いただきました。薄井先生は、鎌倉新書や朝日新聞の論座でも数多く執筆されている、昨今の寺院や仏教をとりまく事情に詳しい専門家です。

ているが、実は葬式や仏壇があることによって、死者をねんごろにするという意味があり、日本人は大切にしてきたことを紹介されました。また、豊富なデータの中から、読売新聞の最近の日本人の宗教観についてのアンケートを紹介されて、

- ①「宗教を信じますか」 yes 28%
 - ②「先祖を敬いますか」 yes 94%
 - ③「先祖に霊力を感じますか」 yes 63%
- 日本人は、宗教という感覚は薄い

これからが仏教の真価

最近、寺離れをテレビで盛んに紹介するが、実は、キリスト教や神道に比べて、寺は圧倒的に支持されていて、寺離れとは、寺を維持する「家」の崩壊を意味していることを紹介されました。

講演の締めくくりで、近年の日本では、「ムラ」、「家」に続いて、「家族」の解体が叫ばれ、人を育てる母体、そして死を身近に感ずる機会が急速に失われてしまっている。そんな今こそ、仏教は真価が問われていると指摘されました。

10月度護国寺会物故者

釋尼妙輝

10月16日寂 鈴置輝子(83)

落合組 鈴置芳弘様の義祖母

誠実院釋兼純

10月16日寂 岡本兼蔵(78)

今川東組 岡本廣子様の夫

焼却器を新規に設置

さる10月20日、本堂西側の墓地前に、新たに焼却器メーカー・DAITOによって、完全燃焼型の焼却器が設置されました。焼却器は、葬儀の法名板や仏具など処分



焼却器設置の様子(西側墓地前)

編集部短信

◆本堂の傾き検査完了Ⅱ さる10月11日、25日の両日、本堂の修繕を担当した亀山建設によって本堂の傾斜に対する定期検査を実施。調査の結果、本堂の傾きは検出されなかったが、一部沈下がみられ、今後注意して経過をみるとの結果報告がなされた。

◆境内南側墓地・生垣の舗装完了Ⅱ 墓地管理委員会によると、さる10月15日までに、境内南側墓地の生垣下の防草に、真砂土ミックスという舗装を完了した。

◆境内西側墓地ブロック塀の一部アルミに変更Ⅱ 10月より、西側墓地のブロック塀の一部をアルミに変更する耐震工事を実施。報恩講前までに完了の予定。

編集雑記

仏教が元で戦争を起こしたことはない。これは、本堂にありがたない事実です。しかし、第二次世界大戦では、不殺生を標榜し、煩惱を滅することを旗頭とした仏教徒もなし崩し的であったにせよ、積極的に戦争協力してしまいました。再び戦禍が見えてきた現在、私たち仏教徒は、何をすべきか真剣に考えるときが来ているように感じます。(住)

.....

朝晩が寒いと感じるようになりました。そろそろ半袖で過ごすのは厳しいと感じます。昔は衣替えを彼岸を境目にしていたと聞いたことがあります。今では考えられませんね。(若)



11月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	水	(有志)寺カフェ(9:00～、順慶寺南落間他)	
2	木		木-1
3	金	文化の日	
4	土		
5	日		
6	月	おたのしみ会(14:00、順慶寺本堂)	
7	火		
8	水	報恩講前男女助音講(15:00、順慶寺本堂)	
9	木		木-2
10	金		
11	土		
12	日		
13	月		
14	火	おみがき大掃除(8:30、順慶寺) 報恩講前男女助音講(15:00、順慶寺本堂)	
15	水	花立て(8:00、順慶寺本堂) 同朋ゼミ(14:00、順慶寺玄関)	

16	木	お荘厳(8:00、順慶寺本堂)	木-3
17	金	当山報恩講	第一日目(13:00～) こども報恩講(17:00～)
18	土		第二日目(午前・午後)
19	日		第三日目(午前・午後)
20	月		
21	火	21組主催・本山報恩講団参	
22	水		
23	木	勤労感謝の日	木-4
24	金		
25	土		
26	日		
27	月		
28	火	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺本堂)	
29	水		
30	木		
12/1	金	(有志)寺カフェ(9:00～、順慶寺南落間他)	
12/1	土		

11月行事内容 詳細

当山報恩講

11月17日(金)～19日(日)

於：順慶寺本堂

本年も順慶寺最大の法要である、報恩講をお勤めいたします。本年は、初日にこども報恩講を開催し、二日目・三日目は通常の午前午後の日程で法要を開催する予定です。三日目の午後の法要は、三河雅楽研究会の皆さまによる雅楽の伴奏(附物)があります。基本的に、二日目を今川・三河地域、三日目を泉田・尾張地区のお斎ご案内とさせていただきますが、都合により別日の可能です。なお、本年から、コロナ以前の形式に戻し、お茶接待、お斎接待などを実施いたします。

令和五年度 当山報恩講日程

11月17日(金)

13時～15時 初建夜
17時～18時半 こども報恩講

11月18日(土)

10時～12時 結願建夜
13時～15時 お勤め・法話

◎お斎案内：今川地区・三河地域他

11月19日(日) 結願日中

10時～12時 お勤め・法話
13時～15時 お勤め・法話

◎お斎案内：泉田地区・尾張地域他

お知らせ

●墓地ブロック塀の工事について

10月から墓地西側のブロック塀をアルミ塀に取り替える工事をしていますが、11月も引き続き報恩講前まで工事をします。工事現場では、部通行などに支障が出る場合があります。

●こども報恩講のカラーについて

本年から、報恩講初日の子ども報恩講のお楽しみカラーリースが帰ってきます。かつては、二百人を超える子どもが集まったこ

ともあるお楽しみカラーリースです。その他のお楽しみもあります。どなたでも参加できますので、お友達などを誘い合って是非参加してください。

●報恩講お斎の際のイス席について

順慶寺では、祠堂法要からお斎接待を再開させています。お斎の際、イスの使用を希望される方は、予め庫裏にイス専用の席を作りますので、その席をご利用ください。

じゅんこのときめき歳時記

いわし雲

みなさん、十月に入ってから一気に秋の空気になりましたね。風邪などを引いていませんか。

いつも秋になると、決まって出てくる雲がありますよね。形によって、うろこ雲、さば雲、いわし雲、ひつじ雲があるらしいですが、ご存知ですか。わたしは、お父さんがよく山に登っていた関係で、雲のことを話していたので、何となく関心があります。

ものの本によると、うろこ雲、さば雲、いわし雲、秋になって五千米メートル以上の高い空にできる、巻積雲と呼ばれる薄雲の集まりで、秋の澄んだ空気になるとうるく見える雲だそうです。

鯛雲

見てみて、こんな雲が来たら

能村研三

